

発達支援相談拠点の機能を併せ持つ児童発達支援センターとして 求められる機能について（案）

1 基本的な考え方

機能については、小平市発達支援相談拠点検討委員会から提言のあった発達支援相談拠点に必要な機能（小平市発達支援相談拠点検討委員会報告書P36参照）をベースに、療育機能、相談機能、コーディネート機能、地域支援機能、研修機能、啓発機能、家族支援機能、情報収集・提供機能の8つの機能とする。

2 機能の内容

(1) 療育機能

- ・ 児童発達支援

子どもの発達をいろいろな角度からとらえ、個別の小さなグループまたは集団の中で、その子に応じた療育を行うもの。

- ・ 言語相談訓練

言語聴覚士による言葉に関する相談、訓練。あわせて発達に関する相談も行っている。

- ・ 小中高校生向けのソーシャルスキルトレーニング

★年齢に応じた療育内容

(2) 相談機能

- ・ 計画相談・障害児相談支援

サービス等利用計画についての相談及び作成などの支援が必要と認められる場合に、障がい者（児）の自立した生活を支え、障がい者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援するもの。

- ・ 発達支援相談（発達検査も含む）

電話相談、来所相談等により、発達に関する相談を行い、助言や情報提供を行う。必要に応じて発達検査を行う。

★相談対象、相談の形態、相談体制等

(3) コーディネート機能

健康推進課、子ども家庭支援センター、保育園、幼稚園、学校、教育相談室等の地域の支援機関と連携・協力し、障がい児を支援する。

- ・移行支援

児童発達支援事業、言語相談訓練から幼稚園、保育園、学校等への移行を支援する。

- ・連携機能

- ・要保護児童対策協議会への参加
- ・地域自立支援協議会への参加
- ・特別支援教育関係会議への参加
- ・子どもの発達を支援する連絡会への参加
- ・医療機関、保健所、児童相談所等との連携
- ・児童委員、主任児童委員等地域の関係者等との連携

★連携先、連携方法等

(4) 地域支援機能

幼稚園、保育園、小・中学校等の地域の支援機関に出向くアウトリーチを行い、カンファレンスへの参加、幼児・児童・生徒への対応についての指導等を行い、支援力の向上を図る。

- ・巡回相談

市内の幼稚園・保育園・認定こども園を言語聴覚士、臨床発達心理士などの相談員や作業療法士が巡回し、幼稚園教諭や保育士に対し、発達支援に関する指導・助言を行っている。

- ・学校等へのアウトリーチ
- ・個別ケースのカンファレンスへの参加

★支援先、支援の方法

(5) 研修機能

幼稚園教諭、保育園保育士、小・中学校教員に対し研修を実施し、支援力の向上を図る。

- ・巡回相談事例検討会
- ・ペアレントプログラム

子どもの発達が気になる保護者のために、子どもとの関わり方のポイントをわかりやすく伝えるプログラム。平成29年度、30年度はいきいき協働事業により市内NPOと協働で実施。保護者向けだが、幼稚園教諭、保育園保育士にも有効。

★研修対象、研修内容

(6) 啓発機能

市民啓発事業を実施し、市民の発達障害への理解を促進する。

- ・ 市民向け講演会、講座の実施
- ・ 発達障がい啓発用リーフレットの作成
- ・ 発達障がい啓発週間等における啓発活動

★啓発内容

(7) 家族支援機能

障がい受容、就学への不安、学校でのいじめなど、多くの悩みを抱える保護者や兄弟姉妹等の家族を支援する。

- ・ ペアレントプログラム（再掲）

子どもの発達が気になる保護者のために、子どもとの関わり方のポイントをわかりやすくお伝えるペアレントプログラム事業。平成29年度、30年度はいきいき協働事業により市内NPOと協働で実施。

- ・ ペアレントメンター

発達障がいの子どもの育てた経験のある保護者がメンターとなって、悩みをかかえる保護者の相談にのるもの。平成29年度より東京都で実施。平成30年度はいきいき協働事業の中で、市内のNPO法人にペアレントメンターのコーディネートをお願いしている。

- ・ 保育所等訪問支援

保護者の要望により、お子さんが通っている幼稚園等に出向いて集団生活におけるアドバイスを行うもの。

- ・ 親の会支援

親の会のために場所の提供や定期的な講座を実施。また、親の会の横のつながりを図るため連絡会を開催。

★支援内容

(8) 情報収集・提供機能

障がいへの理解啓発につながる情報の収集、情報の提供を行う。

- ・ ホームページの充実
- ・ 発達支援に関するガイドブックの作成

★情報の収集・提供の方法（システム化等）

図1 児童発達支援センターの機能イメージ（案）

